

能登伝統野菜「中島菜」の産地拡大に取り組んでいます

中能登農林総合事務所農業振興部



中島菜（独特のほろ苦さと辛みがあり美味）



ハウス採り中島菜の収穫風景

中島菜は、明治時代から七尾市中島町を中心に栽培されている伝統野菜です。主に2月下旬～3月に収穫される中島菜は、独特のほろ苦さや辛みが早春の風味として好まれ、地元では漬物やおひたしなどとして食卓で重宝されてきました。

近年、県農業総合研究センター（以下、農総研）の研究によって、中島菜に血圧上昇を抑える成分が含まれていることが明らかとなり、健康野菜として注目を集め、お茶やお菓子の加工原料として食品企業からの需要が増加しています。このため、当事務所では、JA、農総研と協力して、中島菜の産地拡大に取り組んでいます。

これまで生産拡大に向けて、集落営農組織等に中島菜の栽培を働きかけ、生産者は平成17年の38人から平成21年には110人にまで増加しました。

また、出荷期間の拡大に向け、農総研が育成した収穫期間の長い品種を、現地での栽培指導や管理情報の提供を通じて農家に普及した結果、4月上旬まで出荷期間を延長することができました。

さらに、露地で栽培される中島菜は、積雪によって品質が低下し、出荷できなくなってしまうため、ハウス栽培の導入を指導した結果、ハウス栽培の面積は昨年に比べて約2倍に増加し、冬期間の安定した出荷が可能となりました。

こうした取組が実を結び、平成17年には281万円だった売上げが、平成21年には1,173万円となり、農家の所得向上に結びついています。

加工業者や消費者からは、さらなる出荷期間の拡大や、生産量の増加を望む声が寄せられています。当事務所では、今後も、新たな生産者の掘り起こしや収穫作業の省力化技術の導入等を図り、産地拡大を支援していきたいと考えています。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所農業振興部（0767-52-5522）